

平成29年度秋田県計画に関する 事後評価

平成30年10月^(当初)
令和2年1月^(追記・修正)

秋田県

3. 事業の実施状況

事業の区分	1. 地域医療構想の達成に向けた医療機関の施設又は設備の整備に関する事業	
事業名	【No.1 (医療分)】 秋田県医療連携ネットワークシステム拡充事業	【総事業費】 5,336 千円
事業の対象となる区域	秋田周辺区域、大仙・仙北区域	
事業の実施主体	秋田県医師会	
事業の期間	平成29年4月1日～令和3年3月31日 <input checked="" type="checkbox"/> 継続 / <input type="checkbox"/> 終了	
背景にある医療・介護ニーズ	医療機関が役割分担・連携の上、医療提供が効率的・効果的に機能する体制を構築するため、本ネットワークシステムを活用し、関係者間で診療情報の共有と連携を図る必要がある。 アウトカム指標： ネットワークシステム参加医療機関における年患者数 (H28：964人 → H30：2,000人)	
事業の内容(当初計画)	診療所等が、秋田県医療連携ネットワークに参加するための初期導入費用に対して助成する。	
アウトプット指標(当初の目標値)	秋田県医療連携ネットワークに参加する医療機関数 (H30：45施設)	
アウトプット指標(達成値)	本事業によりネットワークに参加した医療機関数：24施設 (平成30年度末現在)	
事業の有効性と効率性	<p>アウトカム指標のシステムへの登録患者数は、次のとおり</p> <p>平成29年度末：1,634人 平成30年度末：3,253人</p> <p>(1) 事業の有効性 アウトプット指標は未達成であるが、アウトカム指標は大きく上回り、医療機関同士が患者の診療情報を共有できるネットワークシステムの利用可能地域が拡大することで、県内における地域包括ケアシステムの構築の促進、医療の地域間格差の解消につながった。</p> <p>(2) 事業の効率性 相当数の医療機関がまとまってネットワークに参加するにあたり、関係者が協力して事業に取り組んだことで、効率的な事業展開が図られた。</p>	
その他		

事業の区分	1. 地域医療構想の達成に向けた医療機関の施設又は設備の整備に関する事業	
事業名	【No.2 (医療分)】 脳・循環器疾患の包括的医療提供体制整備事業	【総事業費】 13,210,000 千円
事業の対象となる区域	全区域	
事業の実施主体	秋田県立脳血管研究センター	
事業の期間	平成29年4月1日～令和3年3月31日 <input checked="" type="checkbox"/> 継続 / <input type="checkbox"/> 終了	
背景にある医療・介護ニーズ	<p>急性期から在宅医療・介護に至るまで切れ目なく効率的医療を提供していくため、高齢化の進行に伴い増加が見込まれる脳卒中などの脳神経疾患、心筋梗塞などの循環器疾患を合併する治療困難な患者に対応できる体制を集約することにより、三次医療機能の強化を図るとともに、高度急性期から病態が安定する回復期リハまでの一貫した治療を行うことで、患者が居住地に戻り、他の医療機関との連携を図りながら、在宅等における医療につなげる必要がある。</p> <p>アウトカム指標：入院新規患者数 (H28：2,499人 → H31：2,625人)</p>	
事業の内容(当初計画)	三次医療機能の強化を図るため、県立脳血管研究センターに脳・循環器疾患の包括的医療を効果的に提供することができる機能を備えた新病棟を整備する。	
アウトプット指標(当初の目標値)	脳・循環器疾患の包括的医療を提供する施設数 (H31：1施設)	
アウトプット指標(達成値)	脳・循環器の包括的医療を提供する施設数：1 ※30年度計画等において事業継続	
事業の有効性と効率性	<p>アウトカム指標の「入院新規患者数」は、平成28年度2,499人、平成29年度2,166人、平成30年度2,237人となっている。</p> <p>(1) 事業の有効性 アウトカム指標の入院新規患者数の減少は、一部分野の医師が十分に確保できなかったことによるものであるが、本事業の実施により、高齢化の進展に伴い増加が見込まれる脳卒中などの脳神経疾患、心筋疾患などの循環器疾患を合併する患者にも対応できる包括的医療提供体制が整備され、三次医療機能としての強化が図られる。 なお、今後は医師の十分な確保に努め、入院新規患者数の拡大を図る。</p> <p>(2) 事業の効率性 本事業の実施により、脳・循環器疾患の包括的医療の提供が可能となるほか、施設の整備が実施されることで、安定的な病院経営や、病院サービスの向上にも資することとなる。</p>	
その他		

事業の区分	1. 地域医療構想の達成に向けた医療機関の施設又は設備の整備に関する事業	
事業名	【No.3 (医療分)】 高度急性期の循環器疾患に対する医療体制整備事業	【総事業費】 730,400 千円
事業の対象となる区域	全区域	
事業の実施主体	秋田大学医学部附属病院	
事業の期間	平成29年4月1日～令和3年3月31日 <input checked="" type="checkbox"/> 継続 / <input type="checkbox"/> 終了	
背景にある医療・介護ニーズ	急性心筋梗塞については、秋田周辺区域及び横手区域を除き、機能が不足している状況にあり、当該2区域における機能強化と他の区域との連携体制の整備を進める必要がある。 アウトカム指標：大動脈疾患のうちステントグラフト治療における「秋田周辺区域」以外の症例数 (H28:3.53 症例/月 → H30:5.3 症例/月)	
事業の内容(当初計画)	重症循環器疾患を有する高齢患者に対して、低侵襲かつ高度な医療を提供する外科治療施設(ハイブリッド手術室)を整備する。	
アウトプット指標(当初の目標値)	当該補助により整備を行う施設数 (H30:1 施設)	
アウトプット指標(達成値)	平成30年度は事業未実施(31年度以降に実施予定)	
事業の有効性と効率性	平成30年度は事業未実施(31年度以降に実施予定) (1) 事業の有効性 平成30年度は、事業の実施主体と企画調整を進めており、平成31年度以降の事業実施を予定する。 (2) 事業の効率性 平成30年度は事業未実施(31年度以降に実施予定)	
その他		

事業の区分	1. 地域医療構想の達成に向けた医療機関の施設又は設備の整備に関する事業	
事業名	【No.4 (医療分)】 がん診療施設設備整備事業	【総事業費】 202,392千円
事業の対象となる区域	全区域	
事業の実施主体	北秋田市民病院、秋田厚生医療センター、由利組合総合病院、平鹿総合病院、雄勝中央病院	
事業の期間	平成29年4月1日～令和2年3月31日 <input checked="" type="checkbox"/> 継続 / <input type="checkbox"/> 終了	
背景にある医療・介護ニーズ	<p>全国と比較して人口減少の進行が早い状況にありながら、地域医療構想策定に当たって推計した「がん」の医療需要に変動がなく、がん死亡率が全国で最も高い本県においては、患者に応じた質の高い医療を効率的に提供していくため、がん対策の強化を図る必要がある。</p> <p>アウトカム指標：地域がん登録罹患数 (H26：9,487人 → H29：9,300人)</p>	
事業の内容(当初計画)	<p>がん診療施設における良質かつ適切な医療を効果的に行うため、機器の整備に対して助成する。</p> <p>(旧国庫補助事業の廃止に伴う財源移行分)</p>	
アウトプット指標(当初の目標値)	がん診療設備を整備する施設数 (H27：3 → H30：5)	
アウトプット指標(達成値)	<p>H28 がん診療設備を整備した施設数：5</p> <p>H29 がん診療設備を整備した施設数：5</p> <p>H30 がん診療設備を整備した施設数：5</p>	
事業の有効性と効率性	<p>アウトカム指標地域がん登録罹患数 (H28から「全国がん登録罹患数」に変更)は、H28で11,722と増加したが、登録対象者の拡大が影響している。</p> <p>なお、75歳未満におけるがんの部位別年齢調整死亡率(全部位、人口10万人対)は、83.8で全国4位と好転している。</p> <p>(1) 事業の有効性</p> <p>施設や設備の整備に対する助成措置を行うことにより、実施主体である医療機関の負担を軽減し、がん診療施設としての機能の充実と安全、迅速な医療の提供体制の整備が図られた。</p> <p>(2) 事業の効率性</p> <p>本事業の実施により、良質かつ適切ながん診療提供体制の構築が図られるほか、病院における施設、設備の改修等が実施されることで、安定的な病院経営や、病院サービスの向上にも資することとなった。</p>	
その他		

事業の区分	1. 地域医療構想の達成に向けた医療機関の施設又は設備の整備に関する事業	
事業名	【No.5 (医療分)】 ICTを活用した地域医療・介護連携推進事業	【総事業費】 16,950千円
事業の対象となる区域	由利本荘・にかほ区域	
事業の実施主体	由利本荘医師会	
事業の期間	平成29年4月1日～平成30年3月31日 <input type="checkbox"/> 継続 / <input checked="" type="checkbox"/> 終了	
背景にある医療・介護ニーズ	由利本荘・にかほ区域では、由利本荘医師会と由利本荘市・にかほ市を中心とした医療・介護・福祉の連携強化による地域包括ケアシステムの構築が急務になっている。 アウトカム指標：由利本荘・にかほ区域における当該事業によりICTを活用した情報共有化登録患者数 (H28:73人 →H29:180人)	
事業の内容(当初計画)	由利本荘地域をモデル地域として、患者を中心とした質の高い医療・介護サービスを提供するため、医療機関(病院・診療所)間をはじめ、訪問看護ステーション、薬局、介護関係施設等との多職種間でICTを活用した効果的な情報共有を図るためのシステムの利用登録や参加施設の拡充に向けた説明会等の経費に対して助成する。	
アウトプット指標(当初の目標値)	由利本荘・にかほ区域における当該事業によりICTを活用した情報共有化参加施設数 (H27:9施設 →H29:100施設)	
アウトプット指標(達成値)	由利本荘・にかほ区域における当該事業によりICTを活用した情報共有化参加施設数:60施設(平成30年3月末現在)	
事業の有効性と効率性	<p>アウトカム指標の「由利本荘・にかほ区域における当該事業によりICTを活用した情報共有化登録患者数」は、126人(平成30年3月末現在)となっている。</p> <p>(1) 事業の有効性 この取組は今年度グッドデザイン賞を受賞する等関係者の評価は高く、各職種が有する患者情報の一元化と作業の効率化を通じて、地域の在宅医療・介護サービスの質の向上に繋がっている。 参加施設数、登録患者数とも目標を下回ったが、診療所医師の高齢化等によりICTツールを敬遠するケースや、将来的な費用負担等の不安から参加を躊躇するケースもあり、目標数に届かなかったものと考えられる。 今後、本事業の利用促進を図るためには、機器の操作等に抵抗がある方への操作支援がポイントとなることから、その役割を担うサポーターの育成などにも併せて取り組む必要がある。また、在宅医療に取り組む若手医師の確保・育成に向けて、引き続き県医師会と連携して取り組む。</p> <p>(2) 事業の効率性 在宅医療・介護に携わる多職種が、ICTを活用して、患者情報を共有することにより、日常の様子や状態の変化をタイムリーに把握することが可能となった。</p>	
その他		

事業の区分	3. 介護施設等の整備に関する事業										
事業名	【NO.1】 秋田県介護施設等整備事業	【総事業費】 1,351,076 千円									
事業の対象となる区域	大館・鹿角、秋田周辺、由利本荘・にかほ、大仙・仙北、湯沢雄勝										
事業の実施主体	秋田県										
事業の期間	平成 29 年 4 月 1 日～平成 31 年 3 月 31 日 <input checked="" type="checkbox"/> 継続 / <input type="checkbox"/> 終了										
背景にある医療・介護ニーズ	高齢者が地域において、安心して生活できる体制の構築を図る。										
	アウトカム指標： 秋田県第 6 期介護保険事業支援計画における介護老人福祉施設（地域密着型含む）の整備計画 7,785 床										
事業の内容（当初計画）	①地域密着型サービス施設等の整備に対する助成を行う。										
	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th colspan="2" style="text-align: center;">整備予定施設等</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>地域密着型特別養護老人ホーム</td> <td style="text-align: right;">58 床 (2 カ所)</td> </tr> <tr> <td>小規模多機能型居宅介護事業所</td> <td style="text-align: right;">2 カ所</td> </tr> <tr> <td>認知症高齢者グループホーム</td> <td style="text-align: right;">45 床 (5 カ所)</td> </tr> </tbody> </table>		整備予定施設等		地域密着型特別養護老人ホーム	58 床 (2 カ所)	小規模多機能型居宅介護事業所	2 カ所	認知症高齢者グループホーム	45 床 (5 カ所)	
	整備予定施設等										
	地域密着型特別養護老人ホーム	58 床 (2 カ所)									
小規模多機能型居宅介護事業所	2 カ所										
認知症高齢者グループホーム	45 床 (5 カ所)										
②介護施設等の開設・設置に必要な準備経費に対して支援を行う。											
<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th colspan="2" style="text-align: center;">整備予定施設等</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>地域密着型特別養護老人ホーム</td> <td style="text-align: right;">58 床 (2 カ所)</td> </tr> <tr> <td>小規模多機能型居宅介護事業所</td> <td style="text-align: right;">2 カ所</td> </tr> <tr> <td>認知症高齢者グループホーム</td> <td style="text-align: right;">45 床 (5 カ所)</td> </tr> <tr> <td>介護老人福祉施設</td> <td style="text-align: right;">50 床 (1 カ所)</td> </tr> </tbody> </table>		整備予定施設等		地域密着型特別養護老人ホーム	58 床 (2 カ所)	小規模多機能型居宅介護事業所	2 カ所	認知症高齢者グループホーム	45 床 (5 カ所)	介護老人福祉施設	50 床 (1 カ所)
整備予定施設等											
地域密着型特別養護老人ホーム	58 床 (2 カ所)										
小規模多機能型居宅介護事業所	2 カ所										
認知症高齢者グループホーム	45 床 (5 カ所)										
介護老人福祉施設	50 床 (1 カ所)										
④介護サービスの改善を図るための既存施設等の改修に対して支援を行う。											
<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th colspan="2" style="text-align: center;">整備予定施設等</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td colspan="2" style="text-align: center;">既存特養多床室のプライバシー保護のための改修支援 1 カ所</td> </tr> </tbody> </table>		整備予定施設等		既存特養多床室のプライバシー保護のための改修支援 1 カ所							
整備予定施設等											
既存特養多床室のプライバシー保護のための改修支援 1 カ所											
アウトプット指標(当初の目標値)	地域包括ケアシステムの構築に向けて、第 6 期・第 7 期介護保険事業支援計画等において予定している地域密着型サービス施設等の整備を行う。 ・地域密着型介護老人福祉施設 769 床 (30 カ所) → 863 床 (32 カ所)										

	<ul style="list-style-type: none"> ・介護老人福祉施設 6,833床(112カ所) → 6,893床(113カ所) ・認知症高齢者グループホーム 2,615床(199カ所) → 2,687床(202カ所) (平成31年4月1日※平成30年度追記) ・小規模多機能型居宅介護事業所 71カ所 → 73カ所 ・既存の特養多床室のプライバシー保護のための改修支援 9施設 → 10施設
アウトプット指標(達成値)	<ul style="list-style-type: none"> ・地域密着型介護老人福祉施設 796床(30カ所) → 863床(32カ所) (平成30年5月1日) ・介護老人福祉施設 6,833床(112カ所) → 6,893床(113カ所) (平成30年3月31日) ・認知症高齢者グループホーム 2,615床(199カ所) → 2,687床(202カ所) (平成31年4月1日) ・小規模多機能型居宅介護事業所 71カ所 → 72カ所 (平成30年4月1日) ・既存の特養多床室のプライバシー保護のための改修支援9施設→10施設 (平成30年4月1日)
事業の有効性・効率性	<p>事業終了後1年以内のアウトカム指標： 秋田県第6期介護保険事業支援計画における介護老人福祉施設（地域密着型含む）の整備計画 7,785床であったが、地域密着型介護老人福祉29床の整備が未達成となったため、実績は7,756床となった。</p> <p>(1) 事業の有効性 地域密着型サービス施設等の整備により65歳以上人口あたり地域密着型を含めた介護老人福祉施設の定員総数が7,265人から7,756人に増加し、高齢者が地域において、安心して生活できる体制の構築が図られた。</p> <p>(2) 事業の効率性 行政及び事業者が、地域の実情に応じた介護サービスの提供体制を整備するという目的の下にそれぞれの役割を認識に整備を行うことにより、情報交換が円滑に行われ事業の効率化が図られた。</p>
その他	

事業の区分	4. 医療従事者の確保に関する事業	
事業名	【No. 1 (医療分)】 医師修学資金等貸付事業	【総事業費】 26,328 千円
事業の対象となる区域	全区域	
事業の実施主体	秋田県	
事業の期間	平成29年4月1日～平成30年3月31日 (毎年度実施) <input type="checkbox"/> 継続 / <input checked="" type="checkbox"/> 終了	
背景にある医療・介護ニーズ	<p>県民の医療ニーズに対し、効率的で質の高い医療を提供するため、医師をはじめとする医療従事者の不足・地域による偏在の解消に向けた事業を一層推進する必要がある。</p> <p>アウトカム指標：県内の病院における医師数 (秋田大学除く H28:1,287人→H32:1,488人)</p>	
事業の内容(当初計画)	医師の県内定着の促進とともに、医師不足や地域及び診療科の偏在を解消するため、秋田大学の地域枠増員に伴い、修学資金の貸与を行う。	
アウトプット指標(当初の目標値)	修学資金貸与医師・医学生数 (H29 : 172 人)	
アウトプット指標(達成値)	修学資金貸与医師・医学生数(H29) : 174 人	
事業の有効性と効率性	<p>アウトカム指標の「県内病院の医師数(秋田大学除く)」は、1,294人(平成29年10月現在)となっている。</p> <p>(1) 事業の有効性 本事業ではこれまで332人の医学生に修学資金を貸与しており、その内、県外病院勤務等で資金の返還に至ったものが9人(2.7%)であることから、県内病院で勤務する医師の確保に有効な事業となった。</p> <p>(2) 事業の効率性 本事業の事業費は修学資金として県から直接医学生に貸与されており、また、県内病院で一定期間勤務すると返還が免除される制度により、県内の医師確保に直結しているため、事業の効率性は高い。</p>	
その他		

事業の区分	4. 医療従事者の確保に関する事業	
事業名	【No.2 (医療分)】 周産期医療人材育成事業	【総事業費】 1,424 千円
事業の対象となる区域	全区域	
事業の実施主体	秋田県 (秋田県周産期・新生児医療研究会)	
事業の期間	平成29年4月1日～令和3年3月31日 (毎年度実施) <input checked="" type="checkbox"/> 継続 / <input type="checkbox"/> 終了	
背景にある医療・介護ニーズ	<p>県民の医療ニーズに対し、効率的で質の高い医療を提供するため、医師をはじめとする医療従事者の不足・地域による偏在の解消に向けた事業を一層推進する必要がある。</p> <p>アウトカム指標：県内の病院における産科医師数 (秋田大学除く) (H28 : 61 人 → H32 : 62 人)</p>	
事業の内容 (当初計画)	医師不足、地域及び診療科の偏在に対処するため、周産期救急医療に関する実技研修、県内拠点病院との症例検討、周産期医療調査を実施する。	
アウトプット指標 (当初の目標値)	実技研修参加者数 (H29 : 30 人)、症例検討実施施設数 (H29 : 5 施設)、周産期医療調査実施施設数 (H29 : 25 施設)	
アウトプット指標 (達成値)	実技研修参加者数 (H29 : 15 人、H30 : 15 人) 症例検討実施施設数 (H29 : 6 施設、H30 : 5 施設) 周産期医療調査実施施設数 (H29 : 26 施設、H30 : 23 施設)	
事業の有効性と効率性	<p>アウトカム指標 「県内病院産婦人科医師数 (秋田大学を除く)」 H29.10 : 60 人、H30.10 : 57 人 「県内病院小児科医師数 (秋田大学を除く)」 H29.10 : 66 人、H30.10 : 68 人</p> <p>(1) 事業の有効性 アウトプット指標、アウトカム指標の達成値が目標に到達しなかったが、県内各地域において拠点となる病院をネットワークでつなぎ、事例検討や情報共有を行うことで、県民がどの地域にいても等しく周産期医療を受けられる体制が図られた。</p> <p>(2) 事業の効率性 26 年度まで複数に分かれていた事業について、目的を同じくするものを集約して実施した委託事業であり、効率的な事業展開が図られた。</p>	
その他		

事業の区分	4. 医療従事者の確保に関する事業	
事業名	【No. 3 (医療分)】 県内女性医師確保推進事業	【総事業費】 2,758 千円
事業の対象となる区域	全区域	
事業の実施主体	秋田県医師会	
事業の期間	平成29年4月1日～令和3年3月31日 (毎年度実施) <input checked="" type="checkbox"/> 継続 / <input type="checkbox"/> 終了	
背景にある医療・介護ニーズ	<p>県民の医療ニーズに対し、効率的で質の高い医療を提供するため、医師をはじめとする医療従事者の不足・地域による偏在の解消に向けた事業を一層推進する必要がある。</p> <p>アウトカム指標： 県内臨床研修修了者の女性定着者数：H28：14人→H29：17人</p>	
事業の内容 (当初計画)	女性医師の勤務環境改善に係る意識啓発事業等の実施、女性医師就業相談窓口の運営に要する経費に対して助成する。 (国庫補助事業の廃止に伴う財源移行分)	
アウトプット指標 (当初の目標値)	女性医師相談窓口のホームページ閲覧件数 (H29：1,045件) 相談件数 (H29：29件)	
アウトプット指標 (達成値)	女性医師相談窓口のホームページ閲覧件数 (H29)：年間1,098件、H30：1,047件 相談件数 H29：19件、H30：23件	
事業の有効性と効率性	<p>アウトカム指標の「県内臨床研修修了者の女性定着者数」 H29：23人、H30：15人</p> <p>(1) 事業の有効性 相談窓口の設置により、女性医師が安心して働ける環境を整備するとともに、啓発事業等の実施により女性医師支援に対する県内各機関の理解や連携が強化され、女性医師の離職防止、キャリア形成支援につながった。</p> <p>(2) 事業の効率性 県医師会が保有する女性医師支援に関する組織や人材を活用することにより、効率的な事業運営が実施できた。</p>	
その他		

事業の区分	4. 医療従事者の確保に関する事業	
事業名	【NO.4】 小児救急電話相談事業	【総事業費】 9,574千円
事業の対象となる区域	全区域	
事業の実施主体	県医師会	
事業の期間	平成29年4月1日～令和3年3月31日（毎年度実施） <input checked="" type="checkbox"/> 継続 / <input type="checkbox"/> 終了	
背景にある医療・介護ニーズ	<p>県民の医療ニーズに対し、効率的で質の高い医療を提供するため、医師をはじめとする医療従事者の不足・地域による偏在の解消に向けた事業を一層推進する必要がある。</p> <p>アウトカム指標：受診又は119番通報を勧めた者以外の相談件数（H28：1,539件（見込み）→ H29：1,539件以上）</p>	
事業の内容（当初計画）	<p>子供の急な発熱やけが等に対する保護者の育児不安を解消し、小児救急患者受入医療機関の負担を軽減するため、小児救急電話相談を実施するための経費に対して助成する。（国庫補助事業の廃止に伴う財源移行分）</p>	
アウトプット指標（当初の目標値）	小児救急電話相談件数（H28：1,818件（見込み） → H29：1,867件以上）	
アウトプット指標（達成値）	小児救急電話相談件数 H29：1,982件、H30：2,182件	
事業の有効性と効率性	<p>アウトカム指標である受診又は119番通報を勧めた者以外の相談件数 H29：1,720件 H30：1,878</p> <p>（1）事業の有効性 救急電話相談事業で、受診の必要性及び受診の時期等について助言を行うことで、県内医療機関のコンビニ受診の抑制及び過度な受診控えによる重症化の防止に貢献した。</p> <p>（2）事業の効率性 地元紙や地元子育て紙に協力を依頼し、無償で相談室の案内を掲載してもらうなど工夫している。広報経費は減少傾向にあるが、相談件数は増加しているので、効率的な広報ができたと考える。</p>	
その他		

事業の区分	4. 医療従事者の確保に関する事業	
事業名	【NO. 5】 診療参加型病診連携支援事業	【総事業費】 2,886 千円
事業の対象となる区域	大仙・仙北区域、横手区域	
事業の実施主体	秋田県厚生農業協同組合連合会、大曲仙北広域市町村圏組合、横手市	
事業の期間	平成29年4月1日～平成31年3月31日（毎年度実施） <input type="checkbox"/> 継続 / <input checked="" type="checkbox"/> 終了	
背景にある医療・介護ニーズ	<p>県民の医療ニーズに対し、効率的で質の高い医療を提供するため、医師をはじめとする医療従事者の不足・地域による偏在の解消に向けた事業を一層推進する必要がある。</p> <p>アウトカム指標：県内の病院における小児科医師数 (秋田大学除く H27：65人 → H32：66人)</p>	
事業の内容(当初計画)	地域の診療所医師が救急告示病院で行う小児夜間・休日診療及び診療所医師が中核病院で行う救急医療や夜間・休日診療に要する経費に対して助成する。	
アウトプット指標(当初の目標値)	夜間・休日診療に参加する医療機関数 (H28：67カ所 → H29：70カ所)	
アウトプット指標(達成値)	平成28年度 夜間・休日診療に参加する医療機関数：70カ所 平成29年度 夜間・休日診療に参加する医療機関数：73カ所	
事業の有効性と効率性	<p>アウトカム指標の「県内病院小児科医師数（秋田大学を除く）」は68人（平成30年10月現在）となっている。</p> <p>(1) 事業の有効性 小児救急医療に関する医師の負担を軽減することで、地域の小児医療体制の充実、小児科医師の確保を図った。</p> <p>(2) 事業の効率性 診療所医師が交代で中核的な病院で夜間・休日の診療を行い、地域において効率的な診療体制を整えると同時に、勤務医の負担軽減を図った。</p>	
その他		

事業の区分	4. 医療従事者の確保に関する事業	
事業名	【No.6 (医療分)】 看護職員再就業促進研修事業	【総事業費】 3,348 千円
事業の対象となる区域	全区域	
事業の実施主体	秋田県看護協会	
事業の期間	平成29年4月1日～令和3年3月31日 (毎年度実施) <input checked="" type="checkbox"/> 継続 / <input type="checkbox"/> 終了	
背景にある医療・介護ニーズ	県民の医療ニーズに対し、効率的で質の高い医療を提供するため、医師をはじめとする医療従事者の不足・地域による偏在の解消に向けた事業を一層推進する必要がある。 アウトカム指標:看護職員数(人口10万対、常勤換算)(H28:1,414.0人 → H30:1,478.6)	
事業の内容(当初計画)	潜在看護職員を対象に、病院での臨床実務研修や集団講義研修を実施する。 (国庫補助事業の廃止に伴う財源移行分)	
アウトプット指標(当初の目標値)	再就業研修受講者数(H29:12人 H30:12人)、復職就業人数(H29:7人 H30:7人)	
アウトプット指標(達成値)	再就業研修受講者数 H29:16人 再就業研修受講者数 H30:14人 復職就業人数 H29:10人 復職就業人数 H30:6人	
事業の有効性と効率性	<p>アウトカム指標の「看護職員数(人口10万人対)」については、1,471.7人(H30年12月31日現在)となっている。</p> <p>【代替指標】看護職員従事者数(常勤換算)H29:14,354.8人 → H30:14,432.6人(+77.8人)</p> <p>(1) 事業の有効性 アウトカム指標、アウトプット指標とも未達成であったが、看護職員従事者数は着実に増加しており、免許を持ちながら看護職に従事していない潜在看護職を対象にした講義研修、実務研修を実施し、看護実践力を高め、就業への自信につなげることで、看護職員の人材確保に効果があった。</p> <p>(2) 事業の効率性 就業相談を実施するナースセンターが連携するハローワークと情報共有しながら本事業を実施することで、受講者の募集等においてスムーズに実施し、研修を行った結果、看護職員の増加につながった。</p>	
その他		

事業の区分	4. 医療従事者の確保に関する事業	
事業名	【No.7 (医療分)】 新人看護職員研修事業	【総事業費】 44,593 千円
事業の対象となる区域	全区域	
事業の実施主体	秋田大学附属病院、中通総合病院、平鹿総合病院ほか	
事業の期間	平成29年4月1日～平成30年3月31日 (毎年度実施) <input type="checkbox"/> 継続 / <input checked="" type="checkbox"/> 終了	
背景にある医療・介護ニーズ	県民の医療ニーズに対し、効率的で質の高い医療を提供するため、医師をはじめとする医療従事者の不足・地域による偏在の解消に向けた事業を一層推進する必要がある。 アウトカム指標：新人看護職員の離職率の低下 (H27：5.2% → H29：5.2%未満)	
事業の内容 (当初計画)	看護職員の質の向上及び早期離職防止を図るため、新人看護職員が基本的な臨床能力を獲得できるよう、国のガイドラインに沿った研修を実施するための経費に対して助成する。 (国庫補助事業の廃止に伴う財源移行分)	
アウトプット指標 (当初の目標値)	当該補助により新人看護職員研修を実施する施設数 (H29：25 施設)、新人看護職員研修参加者数 (H29：300 人)	
アウトプット指標 (達成値)	当該補助により新人看護職員研修を行った施設数 H29：24 施設 当該補助により新人看護職員研修を行った施設数 H30：25 施設 新人看護職員研修参加者数 H29：290 人 新人看護職員研修参加者数 H30：289 人	
事業の有効性と効率性	アウトカム指標の「新人看護職員定着率」については、96.5%(H30)となっている。 (1) 事業の有効性 当初目標は下回ったが、本事業のような病院単独で新人向け研修を行うことが困難な中小病院向けに集合型の研修に参加する新人看護職員を加えると H29 が 316 名であり、H30 も 327 名と目標を上回った。 新人看護職員が基本的な臨床実践能力を獲得するための研修を実施することにより、早期離職防止につながり、看護職の安定的な確保につながった。 (2) 事業の効率性 看護職員確保対策としての側面のほか、研修実施による看護職員の資質向上、医療安全の確保にもつながっている。また、自施設で研修を完結できない医療機関等の新人看護職員を集めた研修会を県で実施するなど、効率的な事業展開が図られた。	
その他		

事業の区分	4. 医療従事者の確保に関する事業	
事業名	【No.8 (医療分)】 看護職員資質向上研修事業	【総事業費】 9,284 千円
事業の対象となる区域	全区域	
事業の実施主体	秋田県	
事業の期間	平成29年4月1日～平成31年3月31日 (毎年度実施) <input type="checkbox"/> 継続 / <input checked="" type="checkbox"/> 終了	
背景にある医療・介護ニーズ	<p>県民の医療ニーズに対し、効率的で質の高い医療を提供するため、医師をはじめとする医療従事者の不足・地域による偏在の解消に向けた事業を一層推進する必要がある。</p> <p>アウトカム指標： 新人看護職員の離職率の低下 (H27 : 5.2% → H29 : 5.2%未満)</p>	
事業の内容(当初計画)	<p>看護職員の質の向上を図るため、県立衛生看護学院において、病院実習の指導者に対する講習会や看護管理者に対する研修会等を開催する。</p> <p>(国庫補助事業の廃止に伴う財源移行分)</p>	
アウトプット指標(当初の目標値)	実習指導者講習受講者数 (H29 : 40 人)	
アウトプット指標(達成値)	<p>実習指導者研修受講者数 H29 : 29 人</p> <p>実習指導者研修受講者数 H30 : 28 人</p>	
事業の有効性と効率性	<p>アウトカム指標の「新人看護職員離職率」については、3.5%(H30)となっている。</p> <p>(1) 事業の有効性 アウトプット指標である実習指導者研修受講者数は目標を下回ったが、本研修の実施により、県民の医療・看護に対するニーズに的確に応えることのできる看護職員の育成が図られるとともに、看護教育を指導する実習指導者や教育担当者の資質向上が図られた。今後は、よりニーズに即した研修内容の充実を図るとともに、参加対象者への働きかけを強化する。</p> <p>(2) 事業の効率性 他病院の職員との合同研修のため、研修による知識・技術等の習得のほか、コミュニケーション能力の向上や、各医療機関同士の情報の共有化も図られた。</p>	
その他		

事業の区分	4. 医療従事者の確保に関する事業	
事業名	【No.9 (医療分)】 看護師等養成所運営支援事業	【総事業費】 620,615千円
事業の対象となる区域	全区域	
事業の実施主体	秋田しらかみ看護学院、中通高等看護学校、由利本荘看護学校、秋田看護学校、大館准看護学院	
事業の期間	平成29年4月1日～平成31年3月31日 (毎年度実施) <input type="checkbox"/> 継続 / <input checked="" type="checkbox"/> 終了	
背景にある医療・介護ニーズ	<p>県民の医療ニーズに対し、効率的で質の高い医療を提供するため、医師をはじめとする医療従事者の不足・地域による偏在の解消に向けた事業を一層推進する必要がある。</p> <p>アウトカム指標：看護職員数 (人口10万対、常勤換算) (H28:1,414.0人 → H29:1,448.5人)</p>	
事業の内容(当初計画)	<p>看護師等養成所の教員や教材の充実を図り、教育内容を向上させることで、より質の高い看護職員を養成するとともに、安定的な看護職員の供給体制を確保するため、看護師等養成所の運営費に対して助成する。</p> <p>(国庫補助事業の廃止に伴う財源移行分)</p>	
アウトプット指標(当初の目標値)	医療従事者の確保のため、当該補助により看護師等養成を行う施設数 (H28:5)、定員数 (H28:570名)	
アウトプット指標(達成値)	<p>医療従事者の確保のため、当該補助により看護師等養成を行った施設数 H29:5 医療従事者の確保のため、当該補助により看護師等養成を行った施設数 H30:5</p> <p>定員数 H29:570名 定員数 H30:540名</p>	
事業の有効性と効率性	<p>アウトカム指標の「看護職員数」については、人口10万人対1,471.7人(平成30年12月末)となっている。</p> <p>(1) 事業の有効性 アウトカム指標は下回ったが、本事業の実施により、財政状況の厳しい民間立看護師等養成所の教育の質を下げることなく運営が維持された。</p> <p>(2) 事業の効率性 県内民間立養成所の看護師国家試験の合格率は非常に高く、また、卒業生の県内就業率が高いため、質の高い看護職員の確保、県内就業者数の増加に向けた効率的な事業実施が図られた。</p>	
その他		

事業の区分	4. 医療従事者の確保に関する事業	
事業名	【NO.10】 ナースセンター機能強化事業	【総事業費】 7,871 千円
事業の対象となる区域	全区域	
事業の実施主体	県看護協会	
事業の期間	平成29年4月1日～令和3年3月31日（毎年度実施） <input type="checkbox"/> 継続 / <input checked="" type="checkbox"/> 終了	
背景にある医療・介護ニーズ	<p>県民の医療ニーズに対し、効率的で質の高い医療を提供するため、医師をはじめとする医療従事者の不足・地域による偏在の解消に向けた事業を一層推進する必要がある。</p> <p>アウトカム指標：看護職員数（人口10万対、常勤換算） （H28：1,414.0人 → H29：1,448.5人）</p>	
事業の内容（当初計画）	看護職員の復職支援を図るため、より身近な地域での復職相談ができるよう、各地域のハローワークと連携した活動や、平成27年10月より開始した看護職員の退職者届出制度に対応するため、ナースセンター業務の体制強化に要する経費に対して助成する。	
アウトプット指標（当初の目標値）	ナースバンク事業による就業者数（年間100人以上）	
アウトプット指標（達成値）	平成27年度 ナースバンク事業による就業者数：236人 平成28年度 ナースバンク事業による就業者数：302人 平成29年度 ナースバンク事業による就業者数：249人 平成30年度 ナースバンク事業による就業者数：230人	
事業の有効性と効率性	アウトカム指標 H30:1,442.9 （1）事業の有効性 アウトカム指標は下回ったが、求人、求職件数の多いハローワークと連携することで、きめ細やかな職業相談・職業紹介等の就職支援が可能となり、マッチングの増加につながった。 （2）事業の効率性 各地域のハローワークでの出張相談を実施することで、利用者にとっては同一窓口での相談が可能となるほか、ナースセンターにとっては、知名度を高めることになるため、効率的な事業展開が図られた。	
その他		

事業の区分	4. 医療従事者の確保に関する事業	
事業名	【No. 11 (医療分)】 看護職員就労環境改善事業	【総事業費】 540 千円
事業の対象となる区域	全区域	
事業の実施主体	秋田県看護協会	
事業の期間	平成 29 年 4 月 1 日～令和 3 年 3 月 31 日 (毎年度実施) <input type="checkbox"/> 継続 / <input checked="" type="checkbox"/> 終了	
背景にある医療・介護ニーズ	<p>県民の医療ニーズに対し、効率的で質の高い医療を提供するため、医師をはじめとする医療従事者の不足・地域による偏在の解消に向けた事業を一層推進する必要がある。</p> <p>アウトカム指標：看護職員数(人口 10 万対、常勤換算) (H28 : 1, 414. 0 人→H29 : 1, 448. 5 人)</p>	
事業の内容(当初計画)	<p>看護職員の就労環境改善を図るため、多様な勤務形態の導入等についての医療機関の先行事例を活用した研修を実施する。</p> <p>(国庫補助事業の廃止に伴う財源移行分)</p>	
アウトプット指標(当初の目標値)	研修会等出席者数 (H29 : 100 人)	
アウトプット指標(達成値)	<p>研修会等出席者 H29 : 126 人</p> <p>研修会等出席者 H30 : 135 人</p>	
事業の有効性と効率性	<p>アウトカム指標の「看護職従事者数(常勤換算)」については、1, 442. 9 人(平成 30 年 12 月末)となっている。</p> <p>(1) 事業の有効性</p> <p>アウトカム指標は目標に達しなかったが、看護職員の安定確保のためには、総合的な対策が必要であり、本事業での多様な勤務形態の導入・整備に関する研修等の開催により、病院内において働き続けられる就労環境の整備の必要性についての理解が進んだ。</p> <p>(2) 事業の効率性</p> <p>医療機関の先行事例を活用した研修等は、他病院の職員との合同で実施されるため、研修による知識等の習得のほか、各医療機関同士の情報共有が図られた。</p>	
その他		

事業の区分	4. 医療従事者の確保に関する事業	
事業名	【No.12 (医療分)】 病院内保育所 (病児保育) 施設整備事業	【総事業費】 13,880 千円
事業の対象となる区域	大館・鹿角区域	
事業の実施主体	大館市立総合病院	
事業の期間	平成29年10月1日～令和2年3月31日 <input checked="" type="checkbox"/> 継続 / <input type="checkbox"/> 終了	
背景にある医療・介護ニーズ	平成23年に院内保育所を設置したが、乳幼児の突然の病気や看護のため、勤務を休まざるを得ない職員が日常的に多い。 また、慢性的な医師不足解消のためにも、女性医師の働きやすい職場環境を整備する必要があることから、病児保育を行うための保育所改修は必要である。 アウトカム指標：特別休暇 (子の看護休暇) 使用日数 (H27：延336日 → H30：延336日未満)	
事業の内容 (当初計画)	医師・看護職員の勤務の特殊性に鑑み、子どもを持つ女性医師、看護職員をはじめとする医療従事者の離職防止及び再就業を促進するため、新たに病児受入を開始する病院内保育所の改修経費に対して助成する。(国庫補助事業の廃止に伴う財源移行分)	
アウトプット指標 (当初の目標値)	当該補助により病院内保育施設を整備する施設数 (H30：1施設)、病児保育定員の増加 (H30：3～4人)	
アウトプット指標 (達成値)	当該補助により病院内保育施設を整備する施設数 (H30：1施設) 病児保育定員の増加 4名	
事業の有効性と効率性	アウトカム指標：特別休暇 (子の看護休暇)：延333日 (H30) 【代替指標】 看護職員の離職率 秋田県6.5% (全国平均10.9%) 日本看護協会2018 (1) 事業の有効性 アウトカム指標は未達成であるが、本県における離職率の平均値が6.5%と、全国平均の10.9%を大きく下回っており、院内保育所の運営等によって、夜勤、休日勤務を伴うなどの理由による看護職員等の離職を防止することができた。 (2) 事業の効率性 本事業の実施により、看護職員、女性医師等の医療従事者の確保のほか、県の最重要課題である少子化対策にも寄与するため、効率的な事業展開が図られた。	
その他		

事業の区分	4. 医療従事者の確保に関する事業	
事業名	【No.13 (医療分)】 歯科衛生士確保対策事業	【総事業費】 3,964 千円
事業の対象となる区域	全区域	
事業の実施主体	秋田県歯科医療専門学校	
事業の期間	平成29年4月1日～平成30年3月31日 (毎年度実施) <input type="checkbox"/> 継続 / <input checked="" type="checkbox"/> 終了	
背景にある医療・介護ニーズ	<p>県民の医療ニーズに対し、効率的で質の高い医療を提供するため、医師をはじめとする医療従事者の不足・地域による偏在の解消に向けた事業を一層推進する必要がある。</p> <p>アウトカム指標：県内の歯科衛生士養成校卒業者の県内就職割合 (H28 : 79.5% → H29 : 82% → H30 : 90%)</p>	
事業の内容 (当初計画)	在宅歯科医療、口腔ケア等のニーズが高まっている中で、県内における安定的な歯科衛生士の供給体制を確保するため、県内唯一の歯科衛生士養成所の運営費に対して助成する。	
アウトプット指標 (当初の目標値)	本事業により歯科衛生士を養成する施設数 (H29 : 1) 本事業により歯科衛生士を養成する施設数 (H30 : 1)	
アウトプット指標 (達成値)	本事業により歯科衛生士を養成した施設数 (H29) : 1 本事業により歯科衛生士を養成した施設数 (H30) : 1	
事業の有効性と効率性	<p>アウトカム指標の「県内の歯科衛生士養成校卒業者の県内就職割合」(H28)は79.5%、(H29)は89.7%、(H30)は67.5%となっている。</p> <p>【代替指標】県内歯科衛生士指数 H28 : 1,008 人 → H30 : 1,081 人 と増加している。</p> <p>(1) 事業の有効性 アウトカム指標が未達成であるが、代替指標の県内歯科衛生士数は増加しており、本事業を実施することにより、歯科衛生士養成所の経営の安定化が図られ、歯科衛生士の育成及び県内供給体制の確保に寄与することができた。</p> <p>(2) 事業の効率性 在宅歯科医療や口腔ケア等の需要の高まる中で、養成所の運営を継続的に支援することにより、歯科衛生士の資質向上及び量的充足に向けた効率的な事業実施が図られた。</p>	
その他		

事業の区分	5. 介護従事者の確保に関する事業	
事業名	【NO.1】 介護人材確保対策事業（介護人材確保対策Web サイト構築）	【総事業費】 （H30 事業実績額） 0 千円
事業の対象となる区域	全区域	
事業の実施主体	秋田県	
事業の期間	平成 29 年 4 月 1 日～平成 30 年 3 月 31 日 <input checked="" type="checkbox"/> 継続 / <input type="checkbox"/> 終了	
背景にある医療・介護 ニーズ	今後、増加が見込まれる介護需要に対して、適切な介護サービスが供給で きるよう介護職員の確保を図ることが必要。 アウトカム指標：介護職員の増加（1,400 人） ※平成 29 年度末の目標値	
事業の内容（当初計画）	介護人材確保対策のための専用Webサイトにより、幅広い年齢層に向け て介護の仕事や魅力に関する情報を発信し、介護職の理解促進を図る。	
アウトプット指標（当 初の目標値）	介護人材確保対策Webサイトによる情報発信	
アウトプット指標（達 成値）	介護人材確保対策Webサイトによる情報発信 <u>（平成 30 年度事業実施なし）</u>	
事業の有効性・効率性	事業終了後 1 年以内のアウトカム指標：介護職員数については、厚生労働 省「介護サービス施設・事業所調査」の調査結果により達成度を確認する こととなるため、現時点では確認できていない。 （1）事業の有効性 本事業により介護の仕事の情報や現場で働く職員のメッセージ等を掲載 することで、幅広い年齢層に介護職への理解を深める情報が提供された。 （2）事業の効率性 Webサイトによる情報発信により、幅広い層に対して情報提供が図ら れた。	
その他		

事業の区分	5. 介護従事者の確保に関する事業	
事業名	【NO.2】 元気で明るい長寿社会づくり事業（地域ケアマネジメント支援機能強化事業）	【総事業費】 （H30 事業実績額） 0 千円
事業の対象となる区域	全区域	
事業の実施主体	秋田県、（公財）秋田県長寿社会振興財団	
事業の期間	平成 29 年 4 月 1 日～平成 30 年 3 月 31 日 <input checked="" type="checkbox"/> 継続 / <input type="checkbox"/> 終了	
背景にある医療・介護ニーズ	県民の介護に関する理解を得るためには、今後構築を目指す地域包括ケアシステムに関する理解を得ることが必要。 アウトカム指標：介護職員の増加（1,400 人）※平成 29 年度末の目標値	
事業の内容（当初計画）	地域包括ケアシステムに関する理解の促進を図るため、県民を対象としたシンポジウムを開催する。	
アウトプット指標（当初の目標値）	シンポジウム、セミナー参加者数（200 名）	
アウトプット指標（達成値）	シンポジウム参加者数、セミナー参加者数 <u>（平成 30 年度事業実施なし）</u>	
事業の有効性・効率性	一般県民等を対象としたシンポジウムの開催により、地域包括ケアシステム、介護等への理解促進を深めることができた。 （1）事業の有効性 地域の事例等の共有により、地域包括ケアシステム、地域づくりに対する意識等の向上が図られた。 （2）事業の効率性 グループワークによる意見交換、情報共有などにより、着実な理解の促進が図られた。	
その他		

事業の区分	5. 介護従事者の確保に関する事業	
事業名	【NO.3】 介護人材確保対策事業（地域住民に対する介護の仕事に理解促進事業）	【総事業費】 （H30 事業実績額） 0 千円
事業の対象となる区域	全区域	
事業の実施主体	業界団体	
事業の期間	平成 29 年 4 月 1 日～平成 30 年 3 月 31 日 <input checked="" type="checkbox"/> 継続 / <input type="checkbox"/> 終了	
背景にある医療・介護ニーズ	今後、増加が見込まれる介護需要に対して、適切な介護サービスを提供できるよう介護職員の確保を図ることが必要。 アウトカム指標：介護職員の増加（1,400 人） ※平成 29 年度末の目標値	
事業の内容（当初計画）	介護の仕事の理解促進を図るとともに地域社会を支える介護の魅力を発信するため、地域住民を対象とするセミナー開催等に要する経費に対して助成する。	
アウトプット指標（当初の目標値）	地域住民を対象とする介護体験セミナー等の開催（3 回） <u>（平成 30 年度事業実施なし）</u>	
アウトプット指標（達成値）	地域住民を対象とする介護体験セミナー等の開催	
事業の有効性・効率性	事業終了後 1 年以内のアウトカム指標：介護体験セミナー 3 回を開催し、650 人が参加。 （1）事業の有効性 介護体験セミナー 3 回を開催し、中・高校生等の若年層を含む地域住民に対して、介護の仕事に対する理解を深める機会が提供された。 （2）事業の効率性 職能団体等が主催することにより、関係機関等への周知が円滑に図られ、連携・協力のもと効率的に実施された。	
その他		

事業の区分	5. 介護従事者の確保に関する事業	
事業名	【NO. 4】 介護人材確保対策事業（学校訪問による介護の仕事紹介事業）	【総事業費】 （H30 事業実績額） 0 千円
事業の対象となる区域	全区域	
事業の実施主体	秋田県介護福祉士会、秋田看護福祉大学	
事業の期間	平成 29 年 4 月 1 日～平成 30 年 3 月 31 日 <input checked="" type="checkbox"/> 継続 / <input type="checkbox"/> 終了	
背景にある医療・介護ニーズ	今後、増加が見込まれる介護需要に対して、適切な介護サービスを提供できるよう介護職員の確保を図ることが必要。 アウトカム指標：介護職員の増加（1,400 人） ※平成 29 年度末の目標値	
事業の内容（当初計画）	学校訪問により、介護の仕事内容と魅力を学生に紹介する出前講座を実施する。	
アウトプット指標（当初の目標値）	中・高等学校における出前講座実施（54 校）	
アウトプット指標（達成値）	中・高等学校における出前講座実施 <u>（平成 30 年度事業実施なし）</u>	
事業の有効性・効率性	事業終了後 1 年以内のアウトカム指標：学校訪問による出前講座の開催で、9 校（延べ 13 回）の中・高校生（380 人）に介護の仕事と魅力を紹介した。 （1）事業の有効性 本事業により、出前講座を中学・高校 9 校（延べ 13 回）に対して介護の仕事と魅力について紹介した。 （2）事業の効率性 職能団体等及び介護福祉士養成施設の主体的な実施により、効率的に関係機関等への周知により実施された。	
その他		

事業の区分	5. 介護従事者の確保に関する事業	
事業名	【NO. 5】 介護人材確保対策事業（高校生を対象とする介護施設体験事業）	【総事業費】 (H30 事業実績額) 0 千円
事業の対象となる区域	全区域	
事業の実施主体	秋田県	
事業の期間	平成 29 年 4 月 1 日～平成 30 年 3 月 31 日 <input checked="" type="checkbox"/> 継続 / <input type="checkbox"/> 終了	
背景にある医療・介護ニーズ	今後、増加が見込まれる介護需要に対して、適切な介護サービスを提供できるよう介護職員の確保を図ることが必要。	
	アウトカム指標：介護職員の増加（1,400 人） ※平成 29 年度末の目標値	
事業の内容（当初計画）	高校生や大学生の若年層などを対象に、介護施設等での職場体験の機会を提供し、介護職が職業選択の一つとなる機運を醸成する。	
アウトプット指標（当初の目標値）	高校生を中心とする若年層の職場体験者 （100 名：延べ 300 日）	
アウトプット指標（達成値）	高校生を中心とする若年層の職場体験者 <u>（平成 30 年度事業実施なし）</u>	
事業の有効性・効率性	事業終了後 1 年以内のアウトカム指標：高校生を中心とする若年層の職場体験を 69 施設において実施し、参加者にとって、将来介護職が職業選択の一つとなる機運の醸成に繋がった。	
	<p>（1）事業の有効性 本事業により高校等 13 校の学生を中心に 69 人がマッチングにより 69 の施設において職場体験を行った。</p> <p>（2）事業の効率性 体験受入施設、学校への周知及び調整について委託先の県社協が一体的に行うことにより、効率的な職場体験実施につながった</p>	
その他		

事業の区分	5. 介護従事者の確保に関する事業	
事業名	【NO. 6】 介護人材確保対策事業（介護従事者新規就労支援）	【総事業費】 （H30 事業実績額） 0 千円
事業の対象となる区域	全区域	
事業の実施主体	県	
事業の期間	平成 29 年 4 月 1 日～平成 30 年 3 月 31 日 <input checked="" type="checkbox"/> 継続 / <input type="checkbox"/> 終了	
背景にある医療・介護ニーズ	今後、増加が見込まれる介護需要に対して、適切な介護サービスを提供できるよう介護職員の確保を図ることが必要。 アウトカム指標：介護職員の増加（1,400 人） ※平成 29 年度末の目標値	
事業の内容（当初計画）	①介護未経験者等を対象とする基礎講習会を開催する。 ②介護保険施設等における実務訓練（期間雇用 6 ヶ月）を実施する。	
アウトプット指標（当初の目標値）	介護未経験者等を対象とする基礎講習会及び介護保険施設における実務訓練の実施（30 人）	
アウトプット指標（達成値）	介護未経験者等を対象とする基礎講習会及び介護保険施設（平成 30 年度事業実施なし）	
事業の有効性・効率性	事業終了後 1 年以内のアウトカム指標：介護未経験者 19 人が実務訓練を実施し、9 人が修了。9 人全員の就労に繋がった。 （1）事業の有効性 本事業により介護未経験者 39 人が基礎講習会を受講し、うち 9 人が実務訓練を修了した。 （2）事業の効率性 基礎講習会から実務研修まで一体的にフォローすることにより、効率的な就労支援につながった。	
その他		

事業の区分	5. 介護従事者の確保に関する事業	
事業名	【NO. 7】 介護人材確保対策事業（介護従事者研修支援）	【総事業費】 （H30 事業実績額） 0 千円
事業の対象となる区域	全区域	
事業の実施主体	秋田県	
事業の期間	平成 29 年 4 月 1 日～平成 30 年 3 月 31 日 <input checked="" type="checkbox"/> 継続 / <input type="checkbox"/> 終了	
背景にある医療・介護ニーズ	今後、増加が見込まれる介護需要に対して、適切な介護サービスを提供できるよう介護職員の確保を図ることが必要。 アウトカム指標：介護職員の増加（1,400 人） ※平成 29 年度末の目標値	
事業の内容（当初計画）	介護職員初任者研修受講経費の一部に対して助成する。	
アウトプット指標（当初の目標値）	新規就労者のうち介護職員初任者研修修了者（10 人）	
アウトプット指標（達成値）	新規就労者のうち介護職員初任者研修修了者 <u>（平成 30 年度事業実施なし）</u>	
事業の有効性・効率性	事業終了後 1 年以内のアウトカム指標：護職員数については、厚生労働省「介護サービス施設・事業所調査」の調査結果により達成度を確認することとなるため、現時点では確認できていない。 （1）事業の有効性 介護職員初任者研修受講経費を助成することにより、就労希望者が介護の基本的知識を身に付け、受講後の介護職への参入が図られた。 （2）事業の効率性 新規就労者にとって介護の有用な知識が得られることから、受講後の効率的な職場参入・定着が図られた。	
その他		

事業の区分	5. 介護従事者の確保に関する事業	
事業名	【NO.8】 介護人材確保対策事業（介護分野のマッチング機能強化）	【総事業費】 （H30 事業実績額） 0 千円
事業の対象となる区域	全区域	
事業の実施主体	秋田県	
事業の期間	平成 29 年 4 月 1 日～平成 30 年 3 月 31 日 <input checked="" type="checkbox"/> 継続 / <input type="checkbox"/> 終了	
背景にある医療・介護ニーズ	今後、増加が見込まれる介護需要に対して、適切な介護サービスが供給できるよう介護職員の確保を図ることが必要。 アウトカム指標：介護職員の増加（1,400 人） ※平成 29 年度末の目標値	
事業の内容（当初計画）	秋田県福祉人材センターに介護分野の求人求職に係る専門職員を配置し、介護分野のマッチング機能を強化する。	
アウトプット指標（当初の目標値）	介護分野の求人求職に係る専門職員の配置（3 人）	
アウトプット指標（達成値）	介護分野の求人求職に係る専門職員の配置 <u>（平成 30 年度事業実施なし）</u>	
事業の有効性・効率性	事業終了後 1 年以内のアウトカム指標：福祉人材センターを介した介護職員の就職決定者 89 人 （1）事業の有効性 専門職員の配置により、きめ細かい介護分野に係る求人求職の情報の収集及び提供が図られた。 （2）事業の効率性 県内 3 地域に分散配置を行い、担当地区を明確化のうえハローワーク等と連携することで、訪問活動等の効率化が図られた。	
その他		

事業の区分	5. 介護従事者の確保に関する事業	
事業名	【NO.9】 介護職員等による痰吸引等研修事業	【総事業費】 (H30 事業実績額) 0 千円
事業の対象となる区域	全県域	
事業の実施主体	秋田県	
事業の期間	平成 29 年 4 月 1 日～令和 3 年 3 月 31 日 <input checked="" type="checkbox"/> 継続 / <input type="checkbox"/> 終了	
背景にある医療・介護ニーズ	今後、増加が見込まれる痰吸引等の利用者に対して、医師・看護職員との連携・協力し、痰吸引等の医療的ケアを行うことができる介護職員等の養成が必要である。 アウトカム指標：痰吸引等の医療的ケアを行うことができる介護職員等の増(H29 年度末まで 968 名)	
事業の内容 (当初計画)	研修を実施し、特別養護老人ホーム、居宅サービス事業所等において、医師・看護職員との連携・協力の下に痰吸引等の医療的ケアを行うことができる介護職員等を養成する。	
アウトプット指標 (当初の目標値)	介護職員等による痰吸引等研修の実施	
アウトプット指標 (達成値)	介護職員等による痰吸引等研修の実施 (平成 30 年度事業実施なし)	
事業の有効性・効率性	事業終了後 1 年以内のアウトカム指標： 痰吸引等の医療的ケアを行うことができる介護職員等の増 (H29 年度末まで研修受講者 968 名、 うち修了者 765 人で前年度から 292 人の増) (1) 事業の有効性 本事業により登録喀痰吸引等事業者が 158 事業所から 170 事業所に増加し、痰吸引等に係る提供体制が強化された。 (2) 事業の効率性 県内に、喀痰吸引等研修を行うことができる登録研修機関が存在しないため、県が実施することで医療的ケアを行うことができる介護職員等の確実な増加につながっている。	
その他		

事業の区分	5. 介護従事者の確保に関する事業	
事業名	【NO. 10】 介護支援専門員資質向上事業	【総事業費】 (H30 事業実績額) 0 千円
事業の対象となる区域	全区域	
事業の実施主体	指定研修実施機関 秋田県	
事業の期間	平成 29 年 4 月 1 日～平成 30 年 3 月 31 日 <input checked="" type="checkbox"/> 継続 / <input type="checkbox"/> 終了	
背景にある医療・介護 ニーズ	今後、増加が見込まれる要支援・要介護認定者等に対して、適切な介護サービスが供給できるよう介護支援専門員の確保・現任者の資質向上が必要である。	
	アウトカム指標：介護支援専門員の確保 (H28：3,228 人→H29：3,290)	
事業の内容（当初計画）	介護支援専門員としての資質向上を目的とした法定研修の実施に要する経費に対して助成する。	
アウトプット指標（当初の目標値）	介護支援専門員専門研修受講者（300 人） 介護支援専門員主任研修受講者（100 人） 介護支援専門員主任更新研修受講者（80 人）	
アウトプット指標（達成値）	介護支援専門員専門研修受講者 介護支援専門員主任研修受講者 介護支援専門員主任更新研修受講者 <u>（平成 30 年度事業実施なし）</u>	
事業の有効性・効率性	事業終了後 1 年以内のアウトカム指標：介護保険事業所に在籍している介護支援専門員の増加 →3,312 人から 3,328 人に増加した。	
	<p>（1）事業の有効性 現任者 472 人対し研修を実施し、最新の介護保険制度の動向を理解することや、自身のこれまでの取組について見直す機会となり、従事者の質の向上を図ることができた。</p> <p>（2）事業の効率性 研修の開催を複数回設定することにより、受講者が参加しやすい研修運営が図られた。</p>	
その他		

事業の区分	5. 介護従事者の確保に関する事業	
事業名	【NO. 11】 介護職の実践的スキルアップ講座開設事業	【総事業費】 (H30 事業実績額) 0 千円
事業の対象となる区域	全区域	
事業の実施主体	秋田大学 (地域包括ケア・介護予防研修センター)	
事業の期間	平成 29 年 4 月 1 日～平成 30 年 3 月 31 日 <input checked="" type="checkbox"/> 継続 / <input type="checkbox"/> 終了	
背景にある医療・介護ニーズ	<p>介護と医療の円滑な連携のため、身近で支援を行っている介護従事者が、介護を受けている人の身体の異変に早期に気づくことができるよう、医療知識を持つことが必要である。</p> <p>アウトカム指標：テスト形式のアンケートによる知識の向上 (対アンケート調査比較 30%向上)</p>	
事業の内容 (当初計画)	介護職員の医療知識の習得のためのフィジカルアセスメント講座や介護支援専門員のためのファシリテーション講座の開催に要する経費に対して助成する。	
アウトプット指標 (当初の目標値)	講座参加者数 (60 人)	
アウトプット指標 (達成値)	講座参加者数 <u>(平成 30 年度事業実施なし)</u>	
事業の有効性・効率性	<p>事業終了後 1 年以内のアウトカム指標：テスト形式のアンケートによる知識の向上 (対アンケート調査比較 40%向上)</p> <p>(1) 事業の有効性 本事業により、介護従事者が医師との円滑な連携のための医療知識の習得・理解につながるなど、有効な研修であった。</p> <p>(2) 事業の効率性 研修場所を地域毎にわけ、より多くの介護職が受講できる機会を確保した。また、医師から座学だけでなく、実技・演習なども含まれており、効率的な医療知識の習得と、介護医療の連携の理解につながった。</p>	
その他		

事業の区分	5. 介護従事者の確保に関する事業	
事業名	【NO. 12】 訪問介護員の人材養成における基本研修実施事業	【総事業費】 (H30 事業実施なし) 0 千円
事業の対象となる区域	全区域	
事業の実施主体	(公財) 秋田県長寿社会振興財団	
事業の期間	平成 29 年 4 月 1 日～平成 30 年 3 月 31 日 <input checked="" type="checkbox"/> 継続 / <input type="checkbox"/> 終了	
背景にある医療・介護ニーズ	訪問介護サービス利用者の生活障害は多様化しており、利用者個々のニーズに対応するための質の高いサービスの提供ができる人材の育成が必要である。 アウトカム指標：研修終了後のアンケートにおいて、学習意欲・実行意欲の向上（満足度 90%以上）	
事業の内容（当初計画）	要介護者の人権擁護と尊厳あるケア等の知識習得を図るため、訪問介護員を対象とする訪問介護サービスの質の向上研修や、サービス提供責任者を対象とするマネジメント研修会の開催に要する経費に対して助成する。	
アウトプット指標（当初の目標値）	研修参加者数（630 人）	
アウトプット指標（達成値）	研修参加者数 <u>（平成 30 年度事業実施なし）</u>	
事業の有効性・効率性	基礎・応用研修終了後に実施したアンケートで、満足（ほぼ満足含む）の数値が各回で平均 95%以上となった。 また、サービス提供責任者の研修終了後、90%以上が今後も本研修事業の継続が必要と回答している。 （1）事業の有効性 訪問介護員研修・サービス提供責任者研修ともに、90%以上が研修内容に満足（ほぼ満足含む）しており、研修の満足度が非常に高く、知識の習得が図られた。 （2）事業の効率性 知識習得・理解度を高めることができたほか、事業所同士の情報共有にもつながった。	
その他		

事業の区分	5. 介護従事者の確保に関する事業	
事業名	【NO.13】 介護サービスの質の向上事業	【総事業費】 (H30 事業実績額) 0 千円
事業の対象となる区域	全区域	
事業の実施主体	秋田県	
事業の期間	平成 29 年 4 月 1 日～平成 30 年 3 月 31 日 <input checked="" type="checkbox"/> 継続 / <input type="checkbox"/> 終了	
背景にある医療・介護ニーズ	新たに介護事業に参入する事業者、既に事業を行っている事業者において適切で質の高いサービスを提供してもらうため利用者の処遇に着目した調査や研修の開催が必要である。 アウトカム指標：個別ケアに関する理解の普及、事業所における要改善箇所の見直し	
事業の内容（当初計画）	①施設サービス等利用者処遇指導事業：都道府県事務受託法人に実地調査を委託し、事業所の調査・改善助言を行う。 ②個別ケア研修：質の高いケアを目指すため、個別ケアの考え方を普及するための研修を行う。	
アウトプット指標（当初の目標値）	①実地調査の実施 ②個別ケア研修の実施（定員：管理者研修 30 名、職員研修 50 名）	
アウトプット指標（達成値）	①実地調査の実施 ②個別ケア研修の実施 <u>（平成 30 年度事業実施なし）</u>	
事業の有効性・効率性	事業終了後 1 年以内のアウトカム指標：個別ケアに関する理解の普及、事業所における要改善箇所の見直し (1) 平成 29 年度事業で要改善と判断された 42 事業所については改善策を実施済。個別ケアについて計 77 名に考え方を普及。 (2) 事業の効率性 3 年に 1 度の実地指導のみのところ事故が発生した場合、新規事業所が立ち上がった都度調査に当たることができる。 直接研修を行うことで、受講者の理解度が確保できる。	
その他		

事業の区分	5. 介護従事者の確保に関する事業	
事業名	【NO. 14】 主任介護支援専門員に対する指導力等向上研修	【総事業費】 (H30 事業実績額) 0 千円
事業の対象となる区域	全区域	
事業の実施主体	秋田県	
事業の期間	平成 29 年 4 月 1 日～平成 30 年 3 月 31 日 <input checked="" type="checkbox"/> 継続 / <input type="checkbox"/> 終了	
背景にある医療・介護ニーズ	地域包括ケアシステムの構築のため、介護支援専門員に対し適切な助言・指導ができるよう、主任介護支援専門員の指導力向上が必要である。 アウトカム指標：40 名	
事業の内容（当初計画）	主任介護支援専門員に必要な要素を 3 つに分け、年 3 回研修を実施。 ① 介護支援専門員に対する指導・教育方法 ② 地域ケア会議においてグループによる活動が行えるように支援する方法 ③ 地域で不足している社会資源を補うため地域での総合的な調整能力の向上	
アウトプット指標（当初の目標値）	研修修了者 40 名	
アウトプット指標（達成値）	研修修了者 (平成 30 年度事業実施なし)	
事業の有効性・効率性	研修終了後のアンケートで、マネジメント、スーパービジョン、ファシリテーションへの理解度が各回平均 90%以上と高く、本研修修了者が地区研修の講師を務めるなど、指導力の養成に繋がっている。 (1) 事業の有効性 主任介護支援専門員の指導力向上に繋がっており、研修修了者は地区の研修の講師を務めるなど、指導的役割が発揮されている。 (2) 事業の効率性 介護支援専門員協会は県内に 3 支部あり、各地域で主任介護支援専門員の資質にばらつきが生じないように、協会各支部からの推薦で受講してもらっている。	
その他		

事業の区分	5. 介護従事者の確保に関する事業	
事業名	【NO. 15】 認知症医療支援体制充実強化事業	【総事業費】 (H30 事業実績額) 0 千円
事業の対象となる区域	全区域	
事業の実施主体	秋田県、県医師会、県歯科医師会、県薬剤師会、県看護協会	
事業の期間	平成 29 年 4 月 1 日～平成 30 年 3 月 31 日 <input checked="" type="checkbox"/> 継続 / <input type="checkbox"/> 終了	
背景にある医療・介護ニーズ	今後、増加が見込まれる認知症患者等に対して、適切な医療サービスが供給できるよう、認知症ケアに携わる人材の育成が必要である。 アウトカム指標：認知症サポート医の不在地域の解消 (7 市町村→0 市町村)	
事業の内容 (当初計画)	認知症医療支援の体制を強化するため。かかりつけ医、病院勤務従事者に対する認知症対応力向上研修、認知症サポート医、認知症ネットワーク協力医に対するフォローアップ研修の実施、認知症サポート医の養成による人材育成などを行う。	
アウトプット指標 (当初の目標値)	研修参加者数 (500 名)、認知症サポート医養成研修派遣者数 (31 名)	
アウトプット指標 (達成値)	研修参加者数、認知症サポート医養成研修派遣者数 <u>(平成 30 年度事業実施なし)</u>	
事業の有効性・効率性	事業終了後 1 年以内のアウトカム指標：認知症サポート医不在地域の解消 (7 市町村→5 市町村) → 指標：認知症サポート医不在地域が一部解消された (1) 事業の有効性 本事業により、サポート医不在市町村が減少し、認知症施策の取組強化が図られた。 (2) 事業の効率性 本事業を、研修の周知や受講等のノウハウを有している県医師会に委託することで、効率的な受講者数の確保が図られた。	
その他		

事業の区分	5. 介護従事者の確保に関する事業	
事業名	【NO. 16】 認知症介護支援体制充実強化事業	【総事業費】 (H30 事業実績額) 0 千円
事業の対象となる区域	全区域	
事業の実施主体	秋田県	
事業の期間	平成 29 年 4 月 1 日～平成 30 年 3 月 31 日 <input checked="" type="checkbox"/> 継続 / <input type="checkbox"/> 終了	
背景にある医療・介護ニーズ	今後、増加が見込まれる認知症患者等に対して、適切な医療サービスが供給できるよう、認知症ケアに携わる人材の育成が必要である アウトカム指標：法定で受講が義務づけられている研修の受講（150 名）	
事業の内容（当初計画）	介護支援体制を強化するため、認知症対応型サービス事業所の管理者等、法定で研修の受講が義務づけられている者への研修の実施や、認知症介護指導者フォローアップ研修への派遣を行う。	
アウトプット指標（当初の目標値）	研修参加者数（150 名）、介護指導者フォローアップ研修への派遣（2 名）	
アウトプット指標（達成値）	研修参加者数、介護指導者フォローアップ研修への派遣 <u>（平成 30 年度事業実施なし）</u>	
事業の有効性・効率性	事業終了後 1 年以内のアウトカム指標： 117 名が法定で義務づけられている研修を受講し、介護支援体制の強化が図られた。 （1）事業の有効性 本事業により、介護支援体制の強化が図られた。 （2）事業の効率性 本事業を、研修の周知や受講等のノウハウを有している県社協に委託することで、効率的な周知により受講者の確保が図られた。	
その他		

事業の区分	5. 介護従事者の確保に関する事業	
事業名	【NO. 17】 認知症医療・介護連携等推進事業	【総事業費】 (H30 事業実績額) 0 千円
事業の対象となる区域	全区域	
事業の実施主体	秋田県、市町村	
事業の期間	平成 29 年 4 月 1 日～平成 30 年 3 月 31 日 <input checked="" type="checkbox"/> 継続 / <input type="checkbox"/> 終了	
背景にある医療・介護ニーズ	認知症患者の早期発見、早期治療へつなげるため、市町村において認知症初期集中支援チームの設置が必要である。 アウトカム指標：認知症初期集中支援チームの設置市町村数（8→25 市町村）、認知症地域支援推進員配置市町村数（15 市→25 市町村）	
事業の内容（当初計画）	市町村が配置する認知症初期集中支援チーム員、認知症地域支援推進員に必要な知識や技術を習得するための研修受講を支援し、認知症の早期発見、早期対応の体制構築を図る。	
アウトプット指標（当初の目標値）	認知症初期集中支援チーム員研修受講者数（58 名）、認知症地域支援推進員研修受講者数（41 名）	
アウトプット指標（達成値）	認知症初期集中支援チーム員研修受講者数、 認知症地域支援推進員研修受講者数 <u>（平成 30 年度事業実施なし）</u>	
事業の有効性・効率性	事業終了後 1 年以内のアウトカム指標：認知症初期集中支援チームの設置市町村数 8→25 市町村で設置した。 （1）事業の有効性 本事業により、研修を受講した職員が、チーム員、推進員として配置され、認知症施策体制が強化された。 （2）事業の効率性 県が受講料を負担することで、市町村職員が積極的に研修へ参加できた。	
その他		

事業の区分	5. 介護従事者の確保に関する事業	
事業名	【NO. 18】 元気で明るい長寿社会づくり事業（生活支援コーディネーター養成事業）	【総事業費】 （H30 事業実績額） 0 千円
事業の対象となる区域	全区域	
事業の実施主体	秋田県、（公財）秋田県長寿社会振興財団	
事業の期間	平成 29 年 4 月 1 日～平成 30 年 3 月 31 日 <input checked="" type="checkbox"/> 継続 / <input type="checkbox"/> 終了	
背景にある医療・介護ニーズ	地域包括ケアシステムの構築に資するため、生活支援コーディネーターを養成する必要がある。 アウトカム指標：新規コーディネーター配置数（42 名→74 名）	
事業の内容（当初計画）	<ul style="list-style-type: none"> ・生活支援コーディネーター養成研修の実施 ・生活支援コーディネーター指導者養成研修への派遣 ・コーディネーター啓発タウンミーティングの開催 	
アウトプット指標（当初の目標値）	研修参加者数（100 名）	
アウトプット指標（達成値）	研修参加者数 <u>（平成 30 年度事業実施なし）</u>	
事業の有効性・効率性	事業終了後 1 年以内のアウトカム指標：新規コーディネーター配置数（42 名→88 名） （1）事業の有効性 平成 29 年度末で生活支援コーディネーターの設置は（42 名→88 名）となり、配置の促進が図られた。 （2）事業の効率性 養成、指導者育成と階層別研修の展開により効率的なコーディネーターの配置につながった。	
その他		

事業の区分	5. 介護従事者の確保に関する事業	
事業名	【NO. 19】 地域包括ケアシステム構築のための住環境整備に関する研修事業	【総事業費】 (H30 事業実績額) 0 千円
事業の対象となる区域	全区域	
事業の実施主体	秋田県、(公財) 秋田県長寿社会振興財団	
事業の期間	平成 29 年 4 月 1 日～平成 30 年 3 月 31 日 <input type="checkbox"/> 継続 / <input checked="" type="checkbox"/> 終了	
背景にある医療・介護ニーズ	介護必要な人や高齢者が住み慣れた自宅で自立した生活を送れるよう、在宅介護支援に係わる専門職員等の住環境整備に関する知識向上が必要。 アウトカム指標：研修終了後のアンケートにおいて、学習レベル・実行レベルの向上(対アンケート調査比較 20%向上)	
事業の内容(当初計画)	利用者個々のニーズに応じたサービス提供の促進や在宅介護支援に係る専門職員等の資質向上を図るため、住宅改修の情報・知識手法を習得する研修会を開催する。	
アウトプット指標(当初の目標値)	研修参加者数(130名)	
アウトプット指標(達成値)	研修参加者数 <u>(平成30年度事業実施なし)</u>	
事業の有効性・効率性	<p>事業終了後1年以内のアウトカム指標：研修終了後のアンケートにおいて、住宅改修へ積極的に関わりたいとする受講者が32%となった。また、研修内容についても86%がほぼ満足としており、知識・技術等の習得が図られた。</p> <p>(1) 事業の有効性 受講者の約5割が住宅改修業務経験が1～2年未満であったが、受講後の住宅改修への関わり度、講義内容の満足度が高いことから、住宅改修に関する知識・手法等の習得が図られた。</p> <p>(2) 事業の効率性 在宅介護支援に係わる様々な専門職員等が一堂に会することから、高齢者の自立支援への共通理解、多職種での視点の捉え方などについて、情報交換が図られた。</p>	
その他		

事業の区分	5. 介護従事者の確保に関する事業	
事業名	【NO. 20】 相談業務スーパーバイズ研修事業	【総事業費】 (H30 事業実績額) 0 千円
事業の対象となる区域	全区域	
事業の実施主体	秋田県、(公財) 秋田県長寿社会振興財団	
事業の期間	平成 29 年 4 月 1 日～平成 30 年 3 月 31 日 <input type="checkbox"/> 継続 / <input checked="" type="checkbox"/> 終了	
背景にある医療・介護ニーズ	高齢者が地域において、安心して生活できる体制の構築を図る。 アウトカム指標：受講後、研修後のアンケートによる対人援助、対応力の向上	
事業の内容 (当初計画)	地域包括支援センター等の相談業務を担当している職員に対して、個別事例等に応じた相談技法講座や研修会を開催し、対人援助のスキルアップを図る。	
アウトプット指標 (当初の目標値)	講座、研修参加者数 (50 名)	
アウトプット指標 (達成値)	講座参加者数、研修参加者数 (平成 30 年度事業実施なし)	
事業の有効性・効率性	事業終了後 1 年以内のアウトカム指標：研修終了後のアンケートにおいて、対人援助の知識について理解度が深められた受講者が 51% となった。また、講義内容について、87% が実務に活かせるとしている。 (1) 事業の有効性 演習等を通して、個別事例への対応力や相談技法のスキルアップが図られた。 (2) 事業の効率性 事例等を通じたグループワークや演習、様々なケースの情報交換の実施など、効率的な事業実施が図られた。	
その他		

事業の区分	5. 介護従事者の確保に関する事業	
事業名	【NO. 21】 市民後見推進事業	【総事業費】 (H30 事業実績額) 0 千円
事業の対象となる区域	横手地域、湯沢・雄勝地域（湯沢市全域）	
事業の実施主体	市町村	
事業の期間	平成 29 年 4 月 1 日～平成 30 年 3 月 31 日 <input checked="" type="checkbox"/> 継続 / <input type="checkbox"/> 終了	
背景にある医療・介護ニーズ	今後増加が見込まれる高齢者に対し、安心して生活を送ることができる支援体制を構築する必要がある。 アウトカム指標：市支援センターの立ち上げ（1カ所→2カ所）、市民後見人名簿への掲載者数（40人→45人）	
事業の内容（当初計画）	市民後見人養成研修、実践研修修了者のフォローアップ研修の実施、支援センターの設立・運営に係る委員会等を実施し、市民後見制度を推進するほか、市民講座やセミナーの開催を行うなど、制度の周知を図るための経費に対して助成する。	
アウトプット指標（当初の目標値）	研修の参加者（60人）、市民講座・セミナーへの参加者（200人）	
アウトプット指標（達成値）	研修の参加者、市民講座・セミナーへの参加者 <u>（平成30年度事業実施なし）</u>	
事業の有効性・効率性	事業終了後1年以内のアウトカム指標：後見人選任者1名増 （1）事業の有効性 本事業により養成された者が市民後見人に選任され、認知症高齢者が安心して生活できる体制の強化が図られた。 （2）事業の効率性 高齢者が関わりを持つことが多い多職種との連携による制度の周知により、情報の共有や共通認識が効率的に図られた。	
その他		

事業の区分	5. 介護従事者の確保に関する事業	
事業名	【NO. 22】 介護人材確保対策事業（エルダー・メンター研修事業）	【総事業費】 （H30 事業実績額） 0 千円
事業の対象となる区域	全区域	
事業の実施主体	秋田県	
事業の期間	平成 29 年 4 月 1 日～平成 30 年 3 月 31 日 <input checked="" type="checkbox"/> 継続 / <input type="checkbox"/> 終了	
背景にある医療・介護ニーズ	今後、増加が見込まれる介護需要に対して、適切な介護サービスを提供できるよう介護職員の確保を図ることが必要。 アウトカム指標：介護職員の増加（1,400 人） ※平成 29 年度末の目標値	
事業の内容（当初計画）	新人介護職員の早期離職防止・定着促進を図るため、指導役・相談役となる職員の養成研修を実施する。	
アウトプット指標（当初の目標値）	・エルダー・メンター研修受講者数（100 人）	
アウトプット指標（達成値）	・エルダー・メンター研修受講者数 <u>（平成 30 年度事業実施なし）</u>	
事業の有効性・効率性	事業終了後 1 年以内のアウトカム指標：養成研修の実施により、エルダー・メンター制度への理解が進み、制度導入への機運が高まった。（3 回開催、受講者 122 人） （1）事業の有効性 県内 3 カ所で事業者の受けやすい研修実施により、一定の受講者数が確保され、エルダー・メンター制度への理解が進み、制度導入が促進されることで、新人介護職員の早期離職防止・定着促進につながった。 （2）事業の効率性 県社協への委託実施により、実施機関が有するノウハウやネットワークのほか、各関係機関・団体と連携した活動により、効率的な周知が図られ、受講者数の確保により、広くエルダー・メンター制度の周知・理解が図られた。	
その他		

事業の区分	5. 介護従事者の確保に関する事業	
事業名	【NO. 23】 介護人材確保対策事業（介護人材定着促進）	【総事業費】 (H30 事業実績額) 0 千円
事業の対象となる区域	全区域	
事業の実施主体	秋田県	
事業の期間	平成 29 年 4 月 1 日～平成 30 年 3 月 31 日 <input checked="" type="checkbox"/> 継続 / <input type="checkbox"/> 終了	
背景にある医療・介護ニーズ	今後、増加が見込まれる介護需要に対して、適切な介護サービスを提供できるよう介護職員の確保を図ることが必要。 アウトカム指標：介護職員の増加（1,400 人） ※平成 29 年度末の目標値	
事業の内容（当初計画）	理学療法士派遣による腰痛予防対策の普及及び社会保険労務士等の派遣による職場環境等の改善により、介護職の職場定着を支援する。	
アウトプット指標（当初の目標値）	<ul style="list-style-type: none"> ・理学療法士派遣による腰痛予防対策の普及（70 事業所） ・社会保険労務士等の派遣による職場環境等の改善（15 事業所） 	
アウトプット指標（達成値）	<ul style="list-style-type: none"> ・理学療法士派遣による腰痛予防対策の普及 ・社会保険労務士等の派遣による職場環境等の改善 <u>（平成 30 年度事業実施なし）</u>	
事業の有効性・効率性	<p>事業終了後 1 年以内のアウトカム指標：介護職員数については、厚生労働省「介護サービス施設・事業所調査」の調査結果により達成度を確認することとなるため、現時点では確認できていない。</p> <p>（1）事業の有効性 本事業により介護サービス事業所における腰痛予防対策及び労務環境の改善等への取組が図られた。</p> <p>（2）事業の効率性 近隣施設の合同実施により、効率的な事業展開で多くの職場の環境改善につながった。</p>	
その他		

事業の区分	5. 介護従事者の確保に関する事業	
事業名	【NO. 26】 介護ロボット導入推進支援事業	【総事業費】 (H30 事業実績額) 0 千円
事業の対象となる区域	全区域	
事業の実施主体	秋田県	
事業の期間	平成 29 年 4 月 1 日～平成 30 年 3 月 31 日 <input checked="" type="checkbox"/> 継続 / <input type="checkbox"/> 終了	
背景にある医療・介護ニーズ	今後、増加が見込まれる介護需要に対して、適切な介護サービスを提供できるよう介護職員の確保を図ることが必要。 アウトカム指標：介護職員の増加（1,400 人） ※平成 29 年度末の目標値	
事業の内容（当初計画）	介護従事者の身体的負担の軽減や業務の効率化による職場定着を支援するため、介護ロボットを導入する経費に対して助成する。	
アウトプット指標（当初の目標値）	介護ロボットの導入台数（2 台）	
アウトプット指標（達成値）	（平成 30 年度事業実施なし）	
事業の有効性・効率性	事業終了後 1 年以内のアウトカム指標： H29・H30 事業実施なし（H31 以降実施予定） (1) 事業の有効性 ー (2) 事業の効率性 ー	
その他		

事業の区分	5. 介護従事者の確保に関する事業	
事業名	【NO. 27】 介護事業所内保育所運営支援事業	【総事業費】 (H30 事業実績額) 0 千円
事業の対象となる区域	全区域	
事業の実施主体	介護保険事業者	
事業の期間	平成 29 年 4 月 1 日～平成 30 年 3 月 31 日 <input checked="" type="checkbox"/> 継続 / <input type="checkbox"/> 終了	
背景にある医療・介護ニーズ	今後、増加が見込まれる介護需要に対して、適切な介護サービスが供給できるよう介護職員の確保を図ることが必要。 アウトカム指標：介護職員の増加（1,400 人） ※平成 29 年度末の目標値	
事業の内容（当初計画）	介護従事者の離職防止及び再就業を支援するため、介護事業所内保育所の運営に要する経費に対して助成する。	
アウトプット指標（当初の目標値）	介護従事者の確保ために、当該補助により介護事業所内保育施設を運営した事業所数（4）	
アウトプット指標（達成値）	介護従事者の確保ために、当該補助により介護事業所内保育施設を運営した事業所数 <u>（平成 30 年度事業実施なし）</u>	
事業の有効性・効率性	事業終了後 1 年以内のアウトカム指標：介護職員数については、厚生労働省「介護サービス施設・事業所調査」の調査結果により達成度を確認することとなるため、現時点では確認できていない。 （1）事業の有効性 介護事業所 1 事業者に事業所内保育所運営経費について一部補助を行い、育児・子育てにある職員の働きやすい環境整備及び離職防止が図られた。 （2）事業の効率性 介護職員の職場定着や勤務環境の改善と併せて、県の少子化対策にも寄与することから、効率的な事業展開が図られている。	
その他		